

## 第4回 第3期唐津市地域福祉計画進捗管理委員会 委員からのご意見・ご提案

○日時 令和3年7月26日(火) 14:00~16:20

○場所 唐津市役所 第2会議室

### ○進捗管理評価シートに対する委員からのご意見・ご提案

#### 1. 福祉総合相談支援体制の整備

- ・直接雇用と事業委託の利点・欠点を整理し、本市に適した支援体制を構築してほしい。
- ・直接雇用では、推進員の資質に疑義があっても変えにくい。委託のほうがいいと思う。
- ・全体を見通して、直接雇用か事業委託かを判断していただきたい。
- ・人が大事。ワンストップで、たらい回しのないようにお願いしたい。

#### 2. 生活支援体制整備事業

- ・鏡や西唐津では有償ボランティアの取り組みが始まるなど進んでいるところもあるが、地域の熱意に差がある。
- ・人が大事で、熱心な方がいればうまくいく、いなければ続かない。ボランティアだから続かないのか。後に続かないと意味がないと考える。
- ・寝たきりの高齢者や障がい者について、いるかどうかなど発掘をしていただきたい。
- ・地域包括支援課という名称だと、包括して支援する課と考えてしまう。名称は市民に分かりやすくすべき。
- ・高齢者に対する支援を高齢者支援課と地域包括支援課の両課で行っていることが分かりづらくワンストップではないと感じる。
- ・生活の仕方を知らないから、寝たきりになっている人はいると思う。住宅改修や生活・排泄・入浴訓練を行うことで、寝たきりは解消できるのに、唐津は着手できていない。りんくの訓練室も活用がされていないと思われる。
- ・高齢者も障がい者も対応の仕方は変わらない。一体的に考えるべき。

#### 3. 在宅医療・介護連携推進事業

- ・民生委員、行政委員、福祉員との連携を強めて、事業を進めてほしい。
- ・自分の看取られ方を自分で考えさせるように動いていく必要がある。
- ・高齢者はWebでの会議に参加するのが難しいので、方法論を考える必要がある。例えば、高齢者のところに端末を持って行って事前の準備まで行う等。
- ・高齢者のところにスマホを持って行って会議に参加してもらおうとかやってほしい。

#### 4. 離島診療所の医師及び看護師確保

- ・遠隔診療ができたらと思う。
- ・市民の側がWebを利用できるような方法を。

## 5. 小地域福祉活動推進事業補助金

- ・旧郡部への浸透を図っていただきたい。

## 6. 民生委員・児童委員の活動支援

- ・行政連絡員・民生委員・児童委員との連携が必要。
- ・主任児童委員が生活保護のケースワーカーや家庭児童相談員と連携できないか。
- ・広報では、民生委員と福祉員が連携して活動しているという表現にした方がよい。
- ・ワクチン接種予約方法等について周知を図ったことは具体的に記述して良いのでは。
- ・「軽減を図る」ではなく、情報提供を行って活動を支援する、とした方がよい。

## 10. 各相談支援窓口職員向け研修の実施

- ・窓口対応が結局、人になる。人材育成について考えていただきたい。
- ・ノウハウを育ててほしい。

## 14. 避難行動要支援者名簿の活用と啓発

- ・地域における避難支援の手引きを作成したことは成果として挙げて良いのでは。
- ・市民への手引きの周知が必要である。
- ・「障がいのある人」という表現では、「障がい児」が含まれているかどうか伝わりにくい。

## 15. 自主防災組織の設置推進

- ・普段からの訓練、地域リーダーの統率力、住民への周知徹底が必要。
- ・防災マップの危険度が薄いところでも人為的なミスによる災害が起こる可能性はある。
- ・防災マップと自主防災組織との関係性は図られているのか。
- ・原子力災害の避難にも力を入れていただきたい。

## 18. 住宅改修費の助成

- ・転居した場合はもう1回利用できることも書いておいてほしい。
- ・高齢者支援課の制度の方では等級が3つ上がるともう1回利用できるが、知られていないために住宅改修費の助成が伸びていない。加えて、住宅改修をすればどう生活が変わるかを民生委員もご存じない。
- ・住宅改修すれば、被災した時でも、車椅子や歩行器を使って自分で避難できるようになる。住宅改修の重要性は伝え方が大事。

## 24. 介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進

- ・活動している人が喜ぶので、単価を上げてほしい。
- ・長く続かせるためにどうあるべきか、充実させるためにどうあるべきかという検討なので、ぜひ検討していただきたい。

## 25. 地域福祉の啓発

- ・唐津にはFacebookがあり、新しくLINEも正式に始まるので活かしてほしい。
- ・Facebook、LINEでの反応率などを調べてほしい。
- ・SNSは危険を伴うので、誤報のないように表現の仕方に気を付けてほしい。

## 26. 認知症サポーター養成講座の開催

- ・家族も大変な状況の中で認知症サポーターを増やして手助け等ができればと考える。
- ・アルツハイマーについては新しい治療薬が出てきている。そういった情報も集めてほしい。
- ・コロナの影響ということでこの先3年間の目標値を下げているが、他にやれることはないのか。

## 27. 総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進

- ・端末を活用した相互連絡は有効だと思う。今回のコロナ禍での経験はぜひ残してほしい。

### ○その他のご意見・ご提案

- ・インプット・アウトプット・アウトカムを適正に判断しながら修正をしていくのが大事だと考える。
- ・どうしても数値化できないものもある。検証できないと意味がないとは思いますが、生活指標とか目標値によらないもので試みていくのも一つの方法と考える。
- ・民間の評価とは評価基準のあり方が違うと感じる。評価基準の文言では「おおむね順調だが、不十分な点が少しある」となっている点も点数としては50%の評価。パーセンテージを公表すると民間からは叱咤を受ける可能性がある。点数のつけ方は民間・市民の感覚での表現に変えた方が良い。
- ・表現の仕方・やり方については民間目線も入れていく必要があると思う。

以下余白